

No.20

林歯科医院

院長

林 太一

第6期生

林 理恵



令和6年11月、鶴岡市羽黒地区にひと際目を引く、お洒落で強インパクトな建物が建設された。林太一さん、理恵さん夫婦が経営する林歯科医院だ。太一さんは関東の歯科医院でキャリアを磨き、父の経営する林歯科医院を事業承継。去年念願であった医院の新築を成し遂げた。真新しい診療所から二人が目指す理想は「全身的予防歯科」。林歯科医院では、医療の中で唯一健康な人との接点を持つ歯科医院を、「全ての予防の入口」と定義する。その接点を理恵さんが持つ、ヨガやヘルスケア、薬膳等のリソースと掛け合わせ、患者のQOL(生命の質)向上に貢献することを理念としている。歯の治療から予防歯科、ヨガ・食に至るまで、健康や体・心の内面に関わることをフンストップに相談できる場所。歯の治療にきたはずなのに、いつの間にか生活習慣まで改善してしまう場所。そんな卓絶非凡な歯科医院、林歯科医院を取材した。

それぞれの道、そして出逢い

太一さんは勉強に明け暮れた中学時代を経て、歯科大学への進学実績が高い地元高校へ入学した。今の姿からは想像もつかないが、比較的いじめられることが多い学生だったという。そんな経験もあり、当時はXJAPANのYOSHIKIの自由な生き方に強烈に魅了されたそう。そして卒業後、ロックスターを目指し、想い一つで単身上京することになる。しかし、音楽の世界は甘くなく、すぐに挫折を味わうこととなった。そこで一度は捨てた歯科医師への道を再び歩むことを決意した。

一方、理恵さんは埼玉県の高校を卒業後、進学を希望していたが叶わなかった経験を持つ。その経験から「何となく学校に通っている人たちに負けたくない」と考えるようになったという。高校時代の大吉翔平が作成していたことで話題になった「マインドマップ」。理恵さんは当時から作成を続け、自分の興味や強みと向き合い、不調改善や充実した健康的な生活を根本からサポートする仕事を志したのだ。そうして、東京のヨガ教室にインストラクターとして従事していたある日、生徒として門を叩いた太一さんと出会うことになる。

人生観と価値観

太一さんは卒業した大学の付属病院勤務を経験した後、関東の開業医の下を渡り歩き、歯科医師としての「腕」を磨いた。高額な治療費を支払える患者が多い都会の環境下で、最先端技術を施術する機会にも恵まれた。グローバルスタンダードと日本の歯科業界のギャップを痛感していた頃、理恵さんとの出逢いがあった。コロナ禍を経た

今こそ注目されてはいるが、当時の理恵さんは先見のにも地方移住願望を持っていた。また太一さんも、当時の収入や生活に不満はなかったが、50歳以降の自分を考えた時、土地としての魅力、自然、何より思い出がたくさん詰まった庄内で暮らしたいとの想いが募り、夫婦そろつての移住を決めた。ここ庄内から歯科業界における世界と日本のギャップを改善していこうと決意したのだ。面白いエピソードがある。羽黒町黒瀬地区は鶴岡の中心部からそれなりに距離もある。しかし初めて訪れた理恵さんが発した言葉は、「田舎感が足りない」だった。太一さんは驚いたが、今では更に奥の手向地区に中古物件を購入し、二人の子供とともに暮らしている。

若手経営者塾について

二人が若手経営者塾で得た、最たるものは出逢いだ。医院新築を計画していた当初、業界の関係から仙台の設計業者と話を進めていた。そんな折、入塾した若手経営者塾に地元設計会社に勤務する同期がいた。意気投合し、設計業務を全て地元企業に発注することにしたのだ。太一さんは、何度も話し合いを重ね完成した新診療所に、とても満足している様子だった。「何より地元にお金を落とせたことが、本当に良かった。」そう語ってくれた太一さん。志を持って仕事に向き合う人が集う若手経営者塾。高い意識レベル同士が意気投合すれば、それはその後の人生を変える出逢いにも発展しうる。鶴岡信用金庫若手経営者塾はそんな場所でもある。

太一さんは今、鶴岡の歯科医院では初となる、「歯科医師会からの脱退」手続きを進めている。団体に属している様々な面で守られるというメリットはあるが、属しているからこそその不自由も多いという。団体に守られていること、守られた環境を維持し続けたいと思う心が、日本の歯科医師の向上心を削ぎ、医療発展の妨げになっていく。「そんな考えがあるからこそ、棘の道とも言える「歯科医師会からの脱退」を決断した。音楽の道は諦めたが、当時憧れたロックの魂は、今も確実に太一さんの心の中に息づいている。

「日本の医療を引っ張っていくような存在になりたいんです。」そう熱く語る太一さんに次のチャレンジを伺った。「早い内に2つ目の診療所を開業したい。『そんな野望のカミングアウトを受けた理恵さん。ケンカになるかとハラハラしている』と、大丈夫。いつもびっくりさせられてるから。」そう言って笑顔を見せた。お互いに並外れた向上心を持ち、お互いの向上心の向かうベクトルが完全一致しているからこそその一幕を見た気がした。

林歯科医院

鶴岡市羽黒町黒瀬字黒瀬 163

HP: <https://www.dchayashi.com/staff/>

TEL: 0235-62-2159



つなぐ力で100年幸せな街づくり

鶴岡信用金庫

<https://www.tsuruoka-sk.jp/>

